

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-530024(P2004-530024A)

【公表日】平成16年9月30日(2004.9.30)

【年通号数】公開・登録公報2004-038

【出願番号】特願2003-502084(P2003-502084)

【国際特許分類第7版】

C 11 C 5/00

C 09 K 3/00

【F I】

C 11 C 5/00

C 09 K 3/00 104 A

C 09 K 3/00 104 C

C 09 K 3/00 104 E

C 09 K 3/00 104 Z

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月10日(2005.5.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) ロウソクのロウ、並びに

(b) 安定化有効量の

(i) UV吸収剤からなる群より選択される少なくとも1つの化合物、及び

(ii) 周期表の4、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15及び16族から選択される金属を含み、

存在する金属の量が、ロウソクのロウに基づき、15重量ppb～3400重量ppmである

、安定化された組成物。

【請求項2】

成分(i)が、ベンゾトリアゾール、ベンゾフェノン、-シアノアクリレート、オキサニリド、s-トリアジン、シンナメート、マロネート、ベンゾエート、サリチレート及びベンゾキサジン-4-オンの紫外線吸収剤からなる群より選択される少なくとも1つの化合物である、請求項1記載の組成物。

【請求項3】

金属が、Ti、Ni、Zn、Al又はSnである、請求項1又は2記載の組成物。

【請求項4】

ロウソクのロウを安定化させる方法であって、

ロウソクのロウ組成物に、安定化有効量の

(i) UV吸収剤からなる群より選択される少なくとも1つの化合物、及び

(ii) 金属化合物の金属が、周期表の4、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15及び16族から選択される金属化合物、

を加えることを含む方法であり、

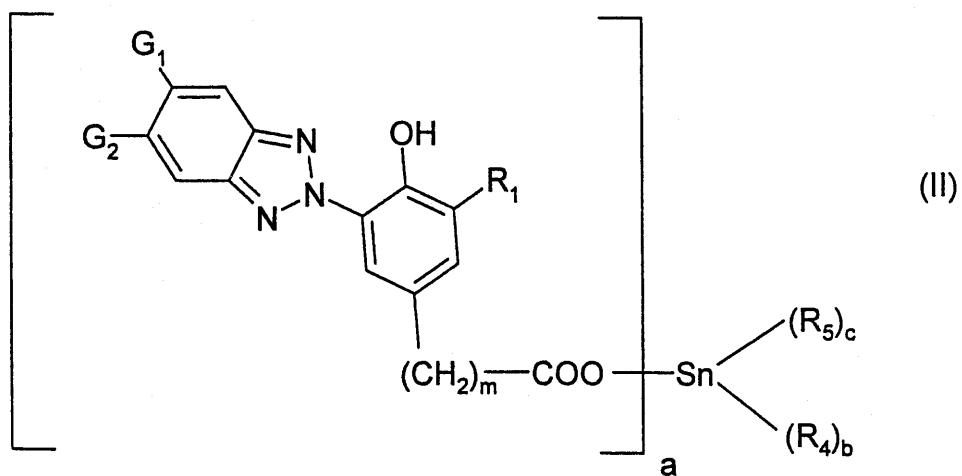
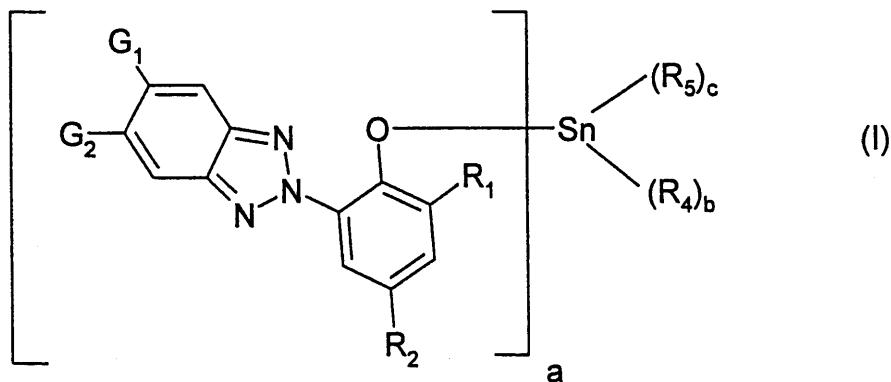
成分(ii)の金属が、ロウソクのロウに基づき、15重量ppb～3400重量ppmである

方法。

【請求項 5】

式(I)又は(II)：

【化1】



[式中、

a、b及びcは、1～4の整数（ここで、 $a + b + c = 4$ である）であり；

mは、0、1又は2であり；

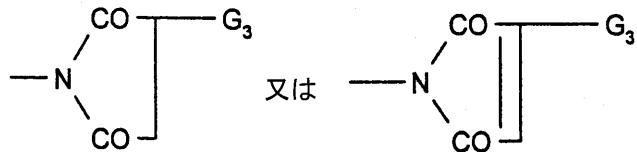
$R_1$ は、水素、炭素原子1～24個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルキル、炭素原子2～18個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルケニル、炭素原子5～12個のシクロアルキル、炭素原子7～15個のフェニルアルキル、フェニル、又は炭素原子1～4個のアルキル1～4個によりフェニル環が置換されている前記フェニル若しくは前記フェニルアルキルであり；

$R_2$ は、炭素原子1～24個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルキル、炭素原子2～18個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルケニル、炭素原子5～12個のシクロアルキル、炭素原子7～15個のフェニルアルキル、フェニル、又は炭素原子1～4個のアルキル1～4個によりフェニル環が置換されている前記フェニル若しくは前記フェニルアルキルであり；

$G_1$ は、水素又はハロゲンであり；

$G_2$ は、水素、炭素原子1～12個のペルフルオロアルキル、ハロゲン、ニトロ、シアノ、 $R_3SO^-$ 、 $R_3SO_2^-$ 、 $-COOG_3$ 、 $-P(O)(C_6H_5)_2$ 、 $-CO-G_3$ 、 $-CO-NH-G_3$ 、 $-CO-N(G_3)_2$ 、 $-N(G_3)-CO-G_3$ 、下記式：

【化2】



であるか、あるいは

$G_2$ は、フェニル、ナフチル、ビフェニリル、9-フェナントリルであるか、又は炭素原子1~18個のアルキル、炭素原子7~15個のフェニルアルキル、 $R_3S^-$ 、 $R_3SO^-$ 、 $R_3SO_2^-$ 、炭素原子6~10個のアリール、炭素原子1~12個のペルフルオロアルキル、ハロゲン、ニトロ、シアノ、カルボキシル、炭素原子2~19個のアルコキシカルボニル、ヒドロキシル、炭素原子1~18個のアルコキシ、炭素原子6~10個のアリールオキシ、炭素原子7~15個のアラルコキシ、ビニル、アセチル、アセトアミド、アミノ、炭素原子2~12個のジアルキルアミノ、ホルミル、炭素原子1~18個のチオアルコキシ、ヒドロキシメチル、アミノメチル、ハロメチル、スルファト、ホスファトの1~3個で置換されている、前記フェニル、ナフチル、ビフェニリル若しくは9-フェナントリルであるか、又は任意の置換基2個が、それらが結合しているアリール部分と一緒にになってベンゾ環を形成し；

$G_3$ は、水素、炭素原子1~24個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルキル、炭素原子2~18個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルケニル、炭素原子5~12個のシクロアルキル、炭素原子7~15個のフェニルアルキル、フェニル、又は炭素原子1~4個のアルキル1~4個によりフェニル環が置換されている、前記フェニル若しくは前記フェニルアルキルであり；

$R_3$ は、炭素原子1~20個のアルキル、炭素原子2~20個のヒドロキシアルキル、炭素原子3~18個のアルケニル、炭素原子5~12個のシクロアルキル、炭素原子7~15個のフェニルアルキル、炭素原子6~10個のアリール、又は炭素原子1~4個のアルキル1又は2個若しくは1,1,2,2-テトラヒドロペルフルオロアルキル（ここでペルフルオロアルキル部分は、炭素原子6~16個のものである）で置換されている前記アリールであり；

$R_4$ は、炭素原子1~18個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルキル、炭素原子5~12個のシクロアルキル、炭素原子7~15個のフェニルアルキル又はフェニルであり；そして

$R_5$ は、炭素原子1~18個の直鎖状若しくは分岐鎖状アルキル、炭素原子5~12個のシクロアルキル、炭素原子7~15個のフェニルアルキル、フェニル、炭素原子1~18個のアルカノイルオキシ、炭素原子1~18個のアルキルチオ、アルコキシカルボニルメチルチオ（ここで、アルキル基は、炭素原子1~18個のものである）、ベンジルマロン酸又はヒドロキシルであるが、

但し、式(I)の化合物では、 $G_1$ が水素の場合、 $G_2$ は、水素又はハロゲンではない]で示されるベンゾトリアゾール-金属錯体又はベンゾトリアゾール-金属塩化合物。